

「夜須高原マイ・チャレンジキャンプ（全3回）」

1 趣 旨

日常生活では体験する機会が少ない、農業体験や野外炊飯などの様々な体験活動を通して、自己肯定感や社会性を高める。
また、農業体験を通して、職業教育・食育に関心をもたせる。

2 主 催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3 連携機関

児童養護施設「洗心寮」「聖華園」「古処学園」

4 期 日

【第1回】令和元年 6月 1日（土）～ 6月2日（日）〈1泊2日〉

【第2回】令和元年10月 5日（土）～10月6日（日）〈1泊2日〉

【第3回】令和元年10月26日（土）〈日帰り〉

5 会 場

国立夜須高原青少年自然の家、サンビレッジ茜、地域の借用田

6 対 象

里親の元、ファミリーホーム及び児童養護施設で暮らす小学生 40名程度

7 参加者

【第1回】

- ・参加児童人数：28名（洗心寮：13名、聖華園：15名 ※古処学園は行事のため不参加）
内訳 小1：7名、小2：2名、小3：4名、小4：4名、小5：7名、小6：4名
- ・児童養護施設職員：5名 ・学生ボランティア：14名 ・当施設職員：6名

【第2回】

- ・参加児童人数：34名（洗心寮：12名、聖華園：18名、古処学園：4名）
内訳 小1：7名、小2：2名、小3：5名、小4：7名、小5：8名、小6：5名
- ・児童養護施設職員：6名 ・学生ボランティア：11名 ・当施設職員：5名

【第3回】

- ・参加児童人数：29名（洗心寮：11名、聖華園：18名 ※古処学園は行事のため不参加）
内訳 小1：6名、小2：2名、小3：4名、小4：5名、小5：8名、小6：4名
- ・児童養護施設職員：6名 ・学生ボランティア：6名 ・当施設職員：4名

8 日 程

【第1回】

○6月1日（土）

出会いのつどい、オリエンテーション、田植えと芋の苗植えについての学習、田植え体験、芋の苗植え体験、野外調理（パエリアづくり）、ふりかえり

○6月2日（日）

朝のつどい、清掃活動～退所点検、かかし作り体験、野外調理（ピザづくり）、自由遊び、ふりかえり、アンケート記入、別れのつどい

【第2回】

○10月5日（土）

再会のつどい、チャレンジクラフト（わら納豆づくり）、稲刈りについての学習、稲刈り体験、
野外調理（豚汁づくり）、ふりかえり

○10月6日（日）

朝のつどい、清掃活動～退所点検、サンビレッジ茜に移動、人工芝スキー体験、アンケート記入、別れのつどい

【第3回】

○10月26日（土）

再会のつどい、米づくりのふりかえり学習、野外炊飯（収穫したお米を使用）、芋掘り体験、
収穫祭（BBQ）、お礼状書き、別れのつどい

9 活動の実際

【第1回】



「田植えについての学習」



「田植え体験」



「芋の苗植え体験」



「野外調理（パエリア）」



「かかし作り」



「野外調理（ピザ）」

【第2回】



【わら納豆づくり】



【稲刈り体験】



【野外調理（豚汁）】



【活動のふりかえり】



【人工芝スキー体験】



【人工芝スキー体験】

【第3回】



【お米炊き】



【収穫祭（BBQ）】



【芋掘り体験】



【お礼状書き】



【別れのつどい】



【集合写真】

10 感想

- 芋植えで土の温度が熱かったけどねかせるのが楽しかったです。秋に大きくなるのが楽しみです。田植えの時、どろにはまってたいへんだったけど、秋にお米ができるのが楽しみです。パエリア作りで火の調節が楽しかったです。
- 野菜を切るのをがんばった。かかしの顔も書くのも楽しかったです。これからもキャンプを通して、ごはん作りに挑戦したいです。植えたお米は元気に育ってほしいです。秋のキャンプも楽しみです。ありがとうございました。
- 二日間を通して、大変だったことは稲刈りと掃除です。理由は、稲刈りは稲がたくさんあったし、掃除はゴミが多かったからです。楽しかったことはスキーです。最後に一番上からすべれたのがうれしかったです。また次回もしたいです。思ったことは、自分たちの班が一番ケンカをしていることです。成長したことは、人にゆずることをできるようになったことです。また、次回もマイ・チャレンジキャンプに行きたいです。
- 稲刈りでは、かまで約100たば、つまり50ばい分の米をかりました。2時間くらいで100たばは、とても少なかったと思います。次はもっとたくさんかりたいです。
- 今日のいもほりとお米たきは最高におもしろかったです。次のキャンプも参加して、いろいろな人とともだちになりたいです。
- 私は、いもがきらいでしたが、お母さんはいも好きなので、今日は参加しましたが、おいしいごはんが食べられ、いもも持って帰ることができたので、お母さんも喜んでくれると思うし、ごはんも食べて参加してよかったと思います。来年でマイ・チャレンジキャンプは終わるようなので、くいのないようにしたいです。
- いもほりでは、いろいろなかたちがあつたけど、ほとんどが「ぶちぶちっ」と音を立ててちぎれていたし、小さいのは食べられないからもったいなかったです。米作りは、まきをわるのがたのしかったですし、火が弱くなったりしたけど、マッチでもう一度するとともにどって逆に強くなったりしていたのでおもしろかったです。

11 成果

- 教育事業に地域連携を取り入れてから3年目になるため、地域住民との共通理解が深まり、より円滑に事業をすすめることができた。また、地域の方から農業を教育事業に取り入れていくための多くのアイデアをいただくこともできた。
- 教育事業実施1週間前に事前準備会議を各大学で行い、学生ボランティアスタッフに対して教育事業担当職員から本事業の趣旨や活動内容についての説明、参加する児童養護施設職員から児童養護施設の実態や児童の特性等についての話をを行った。その結果、学生ボランティアもある程度の知

識をもって児童と関わることができた。

○本部アンケート結果より（４段階で評価）

質問事項	第１回	第２回	第３回	平均値
１．日程全体を通してどうでしたか	３．８６	３．５６	３．７６	３．７３
２．体験活動はどうでしたか	３．６１	３．６５	３．９３	３．７３
３．キャンプの進め方はどうでしたか	３．６４	３．４４	３．８３	３．６４
４．自然の家のスタッフはどうでしたか	３．９６	３．６２	３．８６	３．８１
５．ボランティアスタッフはどうでしたか	３．７５	３．５９	３．８６	３．７３

全ての質問事項で高評価を得ることができた。毎年このキャンプを楽しみにして、連続して参加している子どもも多いため、活動内容については、本事業の趣旨を大切にしたいうえで、毎年新しい活動内容を取り入れていく努力を続けていきたい。

12 課 題

- 農業に関する教育事業であるため、悪天候や自然災害等で農業体験が中止せざるを得ない場合のために、魅力的な代替プログラムも用意しておく必要がある。
- ストーリー性のある３回実施の事業であるため、３回連続で協力してくれる学生ボランティアスタッフの確保が困難であった。大学３年生を中心にスタッフを募集してきたが、比較的、実習や研修が少ない大学１年生にも募集を広げていく必要がある。
- 児童の特性を理解しつつも、応対や接し方で戸惑う場面があった。今後も児童養護施設職員の助言を参考にしながら関わっていきたい。